

萩原朔太郎詩集

三好達治選



「詩はただ病める魂の所有者と孤独者との寂しい慰めである」といい、ひたすら感情の世界を彷徨しつづけた萩原朔太郎は、言葉そのものの

いのちを把握した詩人として、日本の近代詩史上、無二の詩人である。代表作『月に吠える』『青猫』等より創作年次順に編まれた本詩集は、朔太郎(1886 - 1942)の軌跡と特質をあますところなくつたえる。



緑 62-1
岩波文庫

萩原朔太郎詩集

1952年1月25日 第1刷 発行
1981年12月16日 第33刷改版発行◎
1984年5月16日 第35刷 発行

定価 550円

編 者 みよし たつじ 治

発行者 緑川亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-5-5

発行所 株式会社 岩波書店

電話 03-265-4111

*振替 東京 6-26240

印刷・精興社 製本・桂川製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan

岩 波 文 庫

31-062-1

萩原朔太郎詩集

三好達治選

目次

愛憐詩篇(「純情小曲集」より)

犀星序	一六
自序	一八
出版に際して	二〇
夜汽車	二一
こころ	二三
女よ	二五
桜旅上	二七
金魚	二九
静物	三一
涙	三六
蟻地獄	三七
利根川のほとり	三八
浜辺	四〇
緑蔭	四二
再会	四三
地	四四
花鳥	四五
初夏の印象	四五
洋銀の皿	五〇
月光と海月	五一

「月に吠える」抄	一
白秋序	一〇
自序	一一
竹とその哀傷	一一
地面の底の病氣の顔	一二
草の茎	一二
竹	一二
竹	一二
すえたる菊	一二
龟	一二
笛	一二
冬	一六
天上縊死	一六
卵	二〇
交	二〇
交	二一
雲雀料理	二一
感傷の手	二二
山居	二二
殺人事件	二二
雲雀料理	二二
掌上の種	二二
天景	二二
焦心	二三
悲しい月夜	二三
かなしい遠景	二六
悲しい月夜	二六
卯	二七
酉	二九

死	贈物にそへて	一一〇
危険な散歩	さびしい情慾	一一一
酒精中毒者の死	五月の貴公子	一一四
干からびた犯罪	さびしい人格	一一六
くさつた蛤	愛 憐	一四〇
内部に居る人が畸形な病人 に見える理由	恋を恋する人	一四三
春 夜	見しらぬ犬	一四七
ばくとりやの世界	見しらぬ犬	一四八
ありあけ	青樹の梢をあふぎて	一五〇
猫	蛙 よ	一五二
貝	山に登る	一五五
麦畑の一隅にて	孤 独	一五六
陽 春	白い共同椅子	一六〇
くさつた蛤	田舎を恐る	一六一
春の実体		一六二

○

雲雀の巣 [六四]

「松葉に光る」抄(「月に吠える」拾遺) [七一]

松葉に光る [七四] 懾悔 [八〇]

天路巡歷 [七五] 極光 [八一]

巢 [七八]

「青猫」抄 [八三]

序 [八六]

群集の中を求めて歩く [〇一]

その手は菓子である [〇四]

青猫 [〇七]

月夜 [〇九]

春の感情 [一〇]

蟬の唱歌 [一一]

恐ろしく憂鬱なる [一二]

薄暮の部屋 [一三]

寝台を求む [一六]

強い腕に抱かる [一九]

憂鬱なる桜

憂鬱なる花見	三八
夢に見る空家の庭の秘密	三一
黒い風琴	三四
憂鬱の川辺	三七
仏の見たる幻想の世界	三九
鶏	三三
さびしい青猫	三五
恐ろしい山	三六
題のない歌	三八
艶めかしい墓場	四〇
鴉毛の婦人	四二
緑色の笛	四四
寄生蟹のうた	四五
かなしい囚人	四八

憂鬱な風景

野鼠	一五〇
輪廻と転生	一五三
さびしい来歴	一五六
閑雅な食慾	一六〇
怠惰の暦	一六七
閑雅な食慾	一七三
馬車の中	一七四
青空	一七六
笛の音のする里へ行かうよ	一七八
意志と無明	一九七
蒼ざめた馬	二〇〇
思想は一つの意匠であるか	二三三
悪い季節	二四四
遺伝	二七一

白い牡鶴 [六〇]

艶めける靈魂 [六七]

夢 [六七]
春宵 [五九]



軍隊 [五四]

「蝶を夢む」抄(「青猫」拾遺) [二九]

[二九]

蝶を夢む [三〇一]

腕のある寝台 [三〇四]

青空に飛び行く [三〇六]

冬の海の光を感じず [三〇八]

内部への月影 [三一〇]

陸橋 [三一三]

灰色の道 [三一四]

その襟足は魚である [三一七]

春の芽生 [三一九]

黒い蝙蝠 [三二一]

野景 [三二一]
絶望の逃走 [三二三]

[三二三]

僕等の親分 [三二五]

[三二五]

涅槃 [三二九]

[三二九]

かつて信仰は地上にあつた [三四三]

「桃李の道」抄(「青猫」拾遺一) ······	三五
商業 ······	三五
まづしき展望 ······	三五
波止場の烟 ······	三五
農夫 ······	三五
海豹 ······	三六
猫の死骸 ······	三六
沼沢地方 ······	三七
鴉 ······	三九
駱駝 ······	三九
大井町 ······	三九
吉原 ······	三九
大工の弟子 ······	三九
○	
郵便局の窓口で ······	四〇
時計 ······	四〇
輪廻と樹木 ······	三九
ある風景の内殻から ······	三九
仏陀 ······	三八
荒寥地方 ······	三七
まどろすの歌 ······	三四
古風な博覧会 ······	三三
風船乗りの夢 ······	三〇
桃李の道 ······	三五
此为试读, 需要完整PDF请访问: www.erton.com	

郷土望景詩(「純情小曲集」より) ······

四〇五

中学の校庭	四〇八	大渡橋	四七
波宜亭	四〇九	広瀬川	四〇九
二子山附近	四一〇	利根の松原	四一〇
才川町	四一一	公園の椅子	四一三
小出新道	四一三	監獄裏の林	四一四
新前橋駅	四一五		

「氷島」抄 ······

四七

自序	四〇
----	----

珈琲店醉月	四〇
晚秋	四一
品川沖觀艦式	四二

告別	四三
乃木坂俱楽部	四四
漂泊者の歌	四五

帰郷	四五
----	----

「散文詩」抄

四四九

AULD LANG SYNE! 四三一

郵便局 四五九

情緒よ！ 君は帰らぬか 四三四

主よ。休息をあたへ給へ！ 四六一

死なない蝶 四五五

虚無の歌 四六二

神々の生活 四五七

あとがき

(三) 好達治 四五五

愛
憐
詩 篇

「純情小曲集」より

《純情小曲集》

此为试读, 需要完整PDF请访问: www.erton.org